



KoKoRoの窓

株式会社 KoKoRo 愛媛県新居浜市大生院438-3 TEL : 0897-47-5575

乗り越えられない壁

先日、私が40年前高校教師になったとき部活の顧問を持ち、その部員で第一期の卒業生から電話がありました。歳は、54歳で3児の父親で、長男が来年大学卒業で、その進路について迷っているとのこと。大学は、いわゆる私立の難関大学です。おそらく彼の周りの学生達は、ほとんどが一流と言われている所に内定している学生がほとんどだと思います。そんな中、自分は何をしたらいいのかわからないといい、中途半端な状況に、父親として何をアドバイスすればいいかという相談でした。

父親は、この年になって、将来の道筋を具体的に決めたりすることはしたくないらしく、しかし、奥様は、やはり現実的で、父親がするアドバイスは、精神論ばかりで、今、彼にそんな精神論を言っても何の役にも立たないと反論され、それでも父親として何がしてやれるかの相談でした。実は、この教え子は、両親が小学生の時別れ、二人とも身元がわからなくなり、施設で、高校まで暮らしていた生徒です。本当に苦勞をして自分で人生を切り開き、今は、愛知県で会社の社長です。

今日のこの豊かな社会で、子どもは、壁に直面したとき、乗り越えようとせず、壁の前にへたり込んでしまう若者がたくさんいます。それがどの時期に出るか早いか遅いかの問題です。早い子どもは、幼稚園や小学校で、遅い人は、就職してから出る人もいます。その証拠に、新入社員の3人に一人は、3年以内に就職先を辞めているというのは、文科省が4、5年前に出した白書にあります。

では、どうしてこのようなことになっているのか、もう少し考えてみましょう。

う。

現代の子どもは、生まれてから、しなければならぬことが少なすぎる社会で生きています。それは、すべて親から守られ、親の与えられたことだけをこなしていればいい環境で育っています。要請されることが少ないのです。こういう言い方をすると、親がスポーツ好きなら、小さいときからチームに入れたり、音楽を習わせたり、習い事をさせていきます。もちろん学習塾もその一つで、親の時代とは、比べられないほど大変な思いをしている。それに学校の部活も長時間だし、などと反論されると思います。

その要請自体のあり方が昔とは明らかに違うのです。昔は、周りを見て、嫌でも、自分はこうしていかなければならぬと考えて、自分で行動していました。

しかし、今は、親の価値観で、子どもにさせているのではないのでしょうか。子どもには、判断できないから、親がいいと思ったことをさせてるのは当たり前と、又、反論されるかもしれません。でも、本質的なものが違うのです。与えられた要請が、自分から「しなければならぬ」或いは「したい」と思い、自分から行動することが何よりも違った結果を生むということです。ある著名な心理学者は、「～しなければならぬ」といういい意味の緊張感を欠き、そうした心からの緊張感に揺り動かされたときの張り詰めた精神状態に欠けていて、ただ、要請された親からのプレッシャーが与えられるから押しつぶされるといっています。

だれも、子どものためによかれと思ってやっていることではありますが、それが世間体だったり、親が果たせなかった夢であったりして、子どもの心からわき上がっていくものではないから、それが期待に添わないときにつぶれてしまうのです。

心の底から突き動かされる使命感を抱くことができる人たちは、どの時代でも、精神的に張り詰めた状態であってもそれを乗り越えることができるのです。どこかむなしき空虚なものなどなく、強い精神力を作ることができるのです。

しかし、それを精神論として、切り捨ててしまっています。本当にそれでは、いつまで経っても、子ども達は、自分の力で壁を乗り越えることはできないのではないのでしょうか。そういう使命感を持って行動する経験が非常に少なくなっている若者が増える一方です。日常生活の中で、子どもだから、学校のことだけをしていればいいわけでは決していないと思います。

2017年講演会

第2回小西行郎先生講演会 参加受付中

日時：10月1日 日曜日

15:00~16:30

場所：銅夢にいほま

第2研修室

5月23日に第1回目を実施しました、小西行郎先生の講演会を上記の通り実施します。

第1回目では、急遽質問事項の専門性からその場で話の内容を変えて行われました。先生の歯に衣着せない一刀両断のようなお話に反響がありました。

今回は、1回目のレジメの内容で、赤ちゃん学から、子どもの成長と睡眠についてです。事前質問も受け付けておりますので、お問い合わせ下さい。是非

HP : kokoronoasobi.co.jp

✉ info@kokoronoasobi.co.jp



KoKoRoの窓

株式会社 KoKoRo 愛媛県新居浜市大生院438-3 TEL : 0897-47-5575

乗り越えられない壁

先日、私が40年前高校教師になったとき部活の顧問を持ち、その部員で第一期の卒業生から電話がありました。歳は、54歳で3児の父親で、長男が来年大学卒業で、その進路につて迷っているとのこと。大学は、いわゆる私立の難関大学です。おそらく彼の周りの学生達は、ほとんどが一流と言われている所に内定している学生がほとんどだと思います。そんな中、自分は何をしたらいいのかわからないといい、中途半端な状況に、父親として何をアドバイスすればいいかという相談でした。

父親は、この年になって、将来の道筋を具体的に決めたりすることはしたくないらしく、しかし、奥様は、やはり現実的で、父親がするアドバイスは、精神論ばかりで、今、彼にそんな精神論を言っても何の役にも立たないと反論され、それでも父親として何がしてやれるかの相談でした。実は、この教え子は、両親が小学生の時別れ、二人とも身元がわからなくなり、施設で、高校まで暮らしていた生徒です。本当に苦勞をして自分で人生を切り開き、今は、愛知県で会社の社長です。

今日のこの豊かな社会で、子どもは、壁に直面したとき、乗り越えようとせず、壁の前にへたり込んでしまう若者がたくさんいます。それがどの時期に出るか早いか遅いかの問題です。早い子どもは、幼稚園や小学校で、遅い人は、就職してから出る人もいます。その証拠に、新入社員の3人に一人は、3年以内に就職先を辞めているというのは、文科省が4、5年前に出した白書にあります。

では、どうしてこのようなことになっているのか、もう少し考えてみましょう。

う。

現代の子どもは、生まれてから、しなければならぬことが少なすぎる社会で生きています。それは、すべて親から守られ、親の与えられたことだけをこなしていればいい環境で育っています。要請されることが少ないのです。こういう言い方をすると、親がスポーツ好きなら、小さいときからチームに入れたり、音楽を習わせたり、習い事をさせていきます。もちろん学習塾もその一つで、親の時代とは、比べられないほど大変な思いをしている。それに学校の部活も長時間だし、などと反論されると思います。

その要請自体のあり方が昔とは明らかに違うのです。昔は、周りを見て、嫌でも、自分はこうしていかなければならぬと考えて、自分で行動していました。

しかし、今は、親の価値観で、子どもにさせているのではないのでしょうか。子どもには、判断できないから、親がいいと思ったことをさせてるのは当たり前と、又、反論されるかもしれません。でも、本質的なものが違うのです。与えられた要請が、自分から「しなければならぬ」或いは「したい」と思い、自分から行動することが何よりも違った結果を生むということです。ある著名な心理学者は、「～しなければならぬ」といういい意味の緊張感を欠き、そうした心からの緊張感に揺り動かされたときの張り詰めた精神状態に欠けていて、ただ、要請された親からのプレッシャーが与えられるから押しつぶされるといっています。

だれも、子どものためによかれと思ってやっていることではありますが、それが世間体だったり、親が果たせなかった夢であったりして、子どもの心からわき上がっていくものではないから、それが期待に添わないときにつぶれてしまうのです。

心の底から突き動かされる使命感を抱くことができる人たちは、どの時代でも、精神的に張り詰めた状態であってもそれを乗り越えることができるのです。どこかむなしい空虚なものなどなく、強い精神力を作ることができるのです。

しかし、それを精神論として、切り捨ててしまっています。本当にそれでは、いつまで経っても、子ども達は、自分の力で壁を乗り越えることはできないのではないのでしょうか。そういう使命感を持って行動する経験が非常に少なくなっている若者が増える一方です。日常生活の中で、子どもだから、学校のことだけをしていればいいわけでは決してないと思います。

2017年講演会

第2回小西行郎先生講演会 参加受付中

日時：10月1日 日曜日

15:00~16:30

場所：銅夢にいほま

第2研修室

5月23日に第1回目を実施しました、小西行郎先生の講演会を上記の通り実施します。

第1回目では、急遽質問事項の専門性からその場で話の内容を変えて行われました。先生の歯に衣着せない一刀両断のようなお話に反響がありました。

今回は、1回目のレジメの内容で、赤ちゃん学から、子どもの成長と睡眠についてです。事前質問も受け付けておりますので、お問い合わせ下さい。是非

HP : kokoronoasobi.co.jp

✉ info@kokoronoasobi.co.jp

